

こころの言の葉

～伝え合う思い～

平成17年度「こころの言の葉」コンクール作品集

鹿児島市教育委員会 編

は じ め に

鹿児島市教育委員会教育長 石踊 政昭

「鹿児島市の教育を考える市民会議」の提言を受け、平成十五年度から実施され、第三回目となった「こころの言の葉」コンクール。ここに本年度の作品集をお届けいたします。

「こころの言の葉」コンクール及び作品集には、各方面から大きな反響をいただいております。この作品集には、中学生の子から親へあてたメッセージと、親から中学生の子にあてたメッセージ（葉書）が数十編掲載されています。どの作品も、日頃は口に出せない素直な思いを綴ったもので、読む者の心を揺さぶるものばかりです。数多くの「言の葉」の中には、自分と同じ「こころ」のメッセージを見出せるものもあるのではないかと思います。

「こころの言の葉」コンクールには、直接には口に出せない思いを一枚のはがきに託し、中学生の親と子の心の交流を図り、お互いの存在について考えを深めるという趣旨があります。この作品集を皆さんで御愛読いただき、自分の親について、子について、あらためて認め合うとともに、これからの自分の在り方について考える契機としていただければ幸いです。

最後に、今回すばらしい「言の葉」を寄せていただいた八千人を越える皆さんに心から感謝の意を表し、はじめのことばといたします。

「こころの言の葉」の世界を十分に味わってください。

平成十八年一月

目次

「ありがとう」・・・・・・・・・・	中学生の子から親への言の葉	3
「願い」・・・・・・・・・・	親から中学生の子への言の葉	13
「希望」・・・・・・・・・・	明日への言の葉	23
「愛」・・・・・・・・・・	伝え合いたい言の葉	37
平成十七年度「こころの言の葉」コンクール入賞者		44
審査講評		45

「ありがとう」

— 中学生の子から親への言の葉 —





素直になれない

単身赴任で二年生くらいから、はなれてくらししているお父さん。

中学生になってから、二人で出かけることもなくなったね。

私がいやがって、出かけなくなったから：

何か行事にくるのも嫌で、電話でもつい冷たい言葉になってしまう。

そしたらお父さん、とても悲しそうに電話切るね。

自分でもよく分かってるのに、どうしても素直になれないんだ。

前みたいにいっぱいしゃべって、いっぱい笑って：

家族みんなずっと仲良しでいたい。

ごめんね。お父さん。何かあれば車で来てくれる。

目があったら、いつも怖い顔が、くしゃつとなつて、笑い返してくれる。

ほんとはすっごく大好きなのに。冷たくなる言葉が自分でもいやだよ。

でも、これからもよろしく。

そして、いつもありがとう。

これからもずっと支えてね。だいスキ。

感謝の言葉

私のお母さんは、四年前に乳ガンで亡くなった。最近、よく思うことがある。

「もしも、お母さんが生きていれば。」

ふとした瞬間に母がいないことのつらさ、苦しさが、こみあげてくる。

お母さんが、生きていたころ、お母さんは、私に、たくさんのものを残してくれた。

私が、小一の時にはすでにガンにかかっていたらしいが、お母さんは、病院にも行かず、

最後の最後まで隠し通していた。

祖母はそれに対し「なんでもっと早く病院に行かなかったのか。」

と泣き叫んだが、たぶんそれは、私と姉のことをたくさん考えてのことだったと思う。

私は小さなころから病弱な方で、よく風邪をひいて、寝こむことがあった。そんなとき

お母さんは、つきつきりで看病してくれた。こんな風に、病気の自分よりも、子供の方を

一番に考えてくれたお母さん。今でも大好きだし、私が一番尊敬できる、とても大きな存在だ。

もし将来、私が生きて育てるのなら、こんな母親になりたいと思っている。

お母さんが生きていたころ、ちゃんと伝えきれなかった感謝の言葉を、今なら正直に言える。

「天国にいるお母さん、私のお母さんになってくれて、本当にありがとう。」と。



「不器用な父へ……」

私がつらくてどうしようもない時になぜ声をかけてはくれないの。

私が困っている時に、どうして優しくしてくれないの。

私が死にたくて仕方なかった時にどうして悲しそうな顔で見るの。

私が落ち込んでいる時にどうしてわざと明るく話しかけてくるの。

私の成績が落ちても、どうして「次、頑張れよ」というの。

「ねえどうして、なんで、私には全然分らないよ。」

と去年の夏まで思ってた。

でも、去年の夏、私が本当に死にたいと思いながら毎日泣いていたとき、

お父さんが肩に置いた手はとても温かくて、大きくて、

でも小さきぎみに震えていたね。

そのとき私はようやく全て分かったよ。

お父さんは不器用だから、思っていることを素直に態度に表すことはできないけど、

いつも私のことを考えてくれてるんだね。

ごめんね、いろいろと迷惑かけて。でももう大丈夫。

私は元気になったから。

今までありがとう。私はそんな不器用で優しいお父さんが大好きだよ。



心のメッセージ

お母さん。

お母さんがつらいとき、私は何をしてあげられる。

お母さん。

お母さんが悲しいとき、私はどうしたらいい。

お母さん。

いつも私を見守ってくれているお母さん。

お母さんは心配症だから、私に何かあったら とてもあわてるよね。

それがうれしいなあって思うよ。

いつもいつも私を思ってくれるお母さん。

そんなお母さんに私は「何か」してあげられる。

そんなお母さんに私は「何か」をしてあげられた。

いっぱい迷惑かけて、わがままで、言うことを聞かなくて「ごめんなさい」

いつも私のことを考えてくれて「ありがとう」

私は『私のお母さんがお母さんでよかった』って心から思います。

「お母さんありがとう」



言葉をもらう日



私にとってあなたは、いつも怒っている印象しかありません。いつも私にだけきびしくありませんか。

私は成績が悪いです。だからもちろん勉強が大嫌いです。

でも今、一番熱中して取り組めるものがあります。

それはバスケです。私はバスケが大好きです。

だから、弟みたいに成績がよくありません。

でもそんな私でも、

あなたに、「がんばったね」という言葉をもらうためだけに毎日必死です。

だからおとうとだけをほめないで下さい。

私は、あなたから、言葉をもらう日をまっています。

ずっと、ずっと

声にならない声

お父さん、ごめんなさい。

お父さんを泣かせてしまった。苦しめている。自分でもなぜだか分からないけど、友達とケンカして、お母さんともケンカして、つい、優しいお父さんに八つ当たりして言ってしまった。「死んでやる」なんて。そんなつもりじゃなかったの。

お父さんをこんなに悲しませることになるなんて。私に向けたお父さんの背中が大きく大きく波打って揺れ、小さく呻くような、声にならない声が出た。泣いていた。

瞬間、十年前に引きずり戻された。そう、あの日。

妹が生まれて四日目にお兄ちゃんが死んだあの朝に。

私は小さかったけど、はつきりと思いだした。忘れていた記憶が鮮やかに甦った。

あの時のお父さんの背中と同じに揺れていた。声も出せずに泣いていた。どうしよう。

私たちが家族の心はいつも支え合っている。お兄ちゃんのこと強い絆で結ばれているはずなのに。思ってもいけない。口にしてもいけない言葉だったのに。

解っていたはずなのに。つい言ってしまった。ごめんなさい。

お父さんがつぶれた声を押し出して、

「親より先に逝くな。親不孝するな」そう言った。声にならない声が心の中に浸みてくる。

ああお父さん。今度のことは本当にごめんなさい。

あれから十年。いつまでも赤ん坊のように駄々をこねたらいけないね。心配かけたらいけないね。これからは私も少し大人になって、晩酌の時にお父さんの愚痴くらい聞いてあげられなきゃいけないね。

そろそろ、お父さんの力になれるように少し成長しようかな。



母の声

お姉ちゃんや妹のように、私に「勉強しなさい」って言わない、お母さん。友達は、「いいな」って言ってってくれるけど

私はもつと言ってほしいと思ってるんだよ、お母さん。

「私のことなんかどうでもいいんだ。」って。不安になるから…。

小学校五年生の時、私が仲間はずれにされてるのを見て、

私のために涙を流してくれたお母さん。

私を塾に行かせるために三時間もお父さんと言ひ合いをしてくれたお母さん。

今、こうして思い出すと、私の十五年間は、

お母さんと笑って、泣いて、喧嘩しながら歩んできた十五年間だったんだね。

決して「どうでもいい」なんて思っただけなんだね。

わたしよりも少し頼りないお姉ちゃんと、まだ遊んでばかりの妹も心配してるけど、ちゃんと私のことも見てくれてる。

私、もう不安じゃないよ。お母さんの声があれば、がんばれるよ。

だから、これからも「勉強しなさい」って聞かせてね、お母さん。



理想の夫婦

父と母：

最近、家族の会話が減ってきていると感じる事があります。

いつも自分の部屋からリビングに行く時、父と母の口ゲンカがたえず、こっちまでストレスがたまります。

父は、酒を飲むとすぐに説教がはじまり、それがはじまると、母は部屋にもどります。

お互い疲れているのだろうけど、もうちょっと仲よくしてほしいです。

そんな仲の悪い夫婦も

父がいつも頼りにしているのは母であり

母がいつもたよりにしているのは父だと思っています。

いつまでも仲よく楽しく生きてほしいです。

そして僕の理想の夫婦になってもらいたいです。



手にしたものは…

受け取る

何ももらったかわからないけど

何かを受け取る それは愛情かもしれない

それは優しさかもしれない

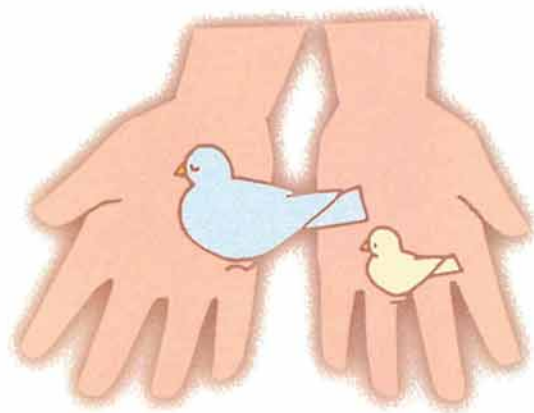
それはプレゼントじゃない それはおもちゃじゃない

何なのかわからないけど自分が親になっても

自分の子供に同じものをあげたい それは

子供にとっていいものになるかわからない

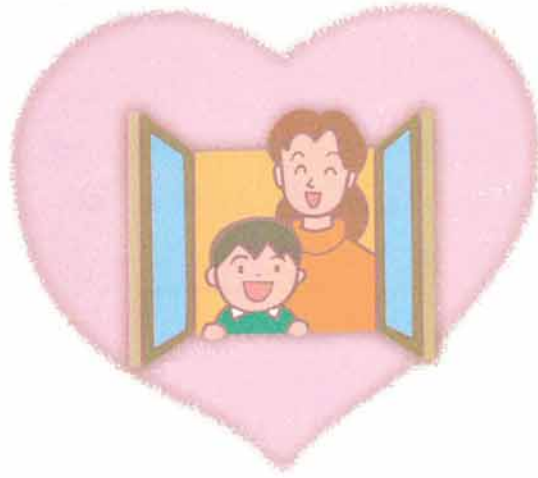
だけど同じものをあげたい…



「願 い」

— 親から中学生の子への言の葉 —





あなたと向き合う

あなたがうれしい時、一緒に喜びたい。
あなたが楽しいとき、一緒に笑いたい。
あなたが苦しいとき、一緒に考えたい。
あなたが辛いとき、一緒に乗り越えたい。

悩んでいるのに気付いてやれなかった。

あれだけサインを出していたのに助けてやれなかった。

あなたに強くなってほしかったから、正しく生きてほしかったから、
きつく言い過ぎた。

その言葉があなたを深く傷つけてしまった。

あなたの心の言葉を聞いてやれなかった。

自分を傷つけるのはもうやめて、ひとりで悩まないで。

これから母は変わりたいと思う。

時間がかかるかもしれない。

また、とんでもなくあなたを叱るかもしれない。

でも、ゆっくりゆっくりあなたと話したい。

あなたと向きあっていきたい。

ありのままのあなたを受け入れたい。

親の願い

「生まれてきてくれてありがとう」

それだけで嬉しかった誕生の時。

身体が弱くて、心配しどおしだったけど、

いつのまにか見上げる高さにまでなりましたね。

あなたの成長と共に、親ならではの願いも

広がっていきます。

「ウザイ」と言われるのは十分承知のうえです。

毎日たくさんのことを注文するのは「親ならではの」

と思っ、注文の半分ぐらいはきいてください。

二十数年前の中学生だった頃の自分に戻って

あなたと同じ目線で語り合い、いろいろなことで

競い合ってみたかったなあ。

身長は越されたけど、まだまだ。

人として大きく成長してくれることを願っています。



我が息子へ

中学に上がり、少しずつではあるが成長していく姿を見て、毎日うれしく思います。

どこことなく昔の自分に似ているようで：

最近、心と体、勉強と部活、そして親子、

いろんなバランスや関係に戸惑って、いらだったり感情を抑えきれずに、何か当たり散らす姿を目にするようになりました。

この前も話したように、お前の気持ちはよく分かっているつもり。自分の息子だから。

でも、これから先には、自分の思う通りにならない事や、自分を抑えて我慢しなければならぬ事が、もっともっと沢山あるはずですよ。

「しつけ」に関してもそうだけど、自分の思うとおりに行かない事、自分の思うとおりにならない事を暴力で解決しようとは思わない。

お前にも、そうあって欲しいと願っている。

それは、自己満足だけであって、何の解決にもならないのだから。

今は、まだ良く理解できないだろう。それでいい。

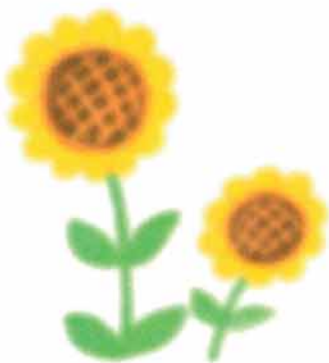
自分の成長と共に、少しずつ判ってくれろと信じています。

決して、我がままではなく、「自由」に生活してください。

そして、いろんな困難にも、進みたい夢にも、自分の判断で決められる

「強い人間」になってください。

お父さんは、絶対に反対しないから：



娘へ



「もう、いい！」最近、あなたからよく聞く言葉。

これで終わる母娘おやこの会話。

「どうせ話したってわからないんだから」と、あなたの顔には書いてある。そして、「もういい！」

「何がもういいの」と決まって始まる母娘ゲンカ。

このパターンが多いよね。疲れるよね。

色々な面でむずかしい年頃だとわかっていても、あなたとすぐケンカして、話があわずに空回り。

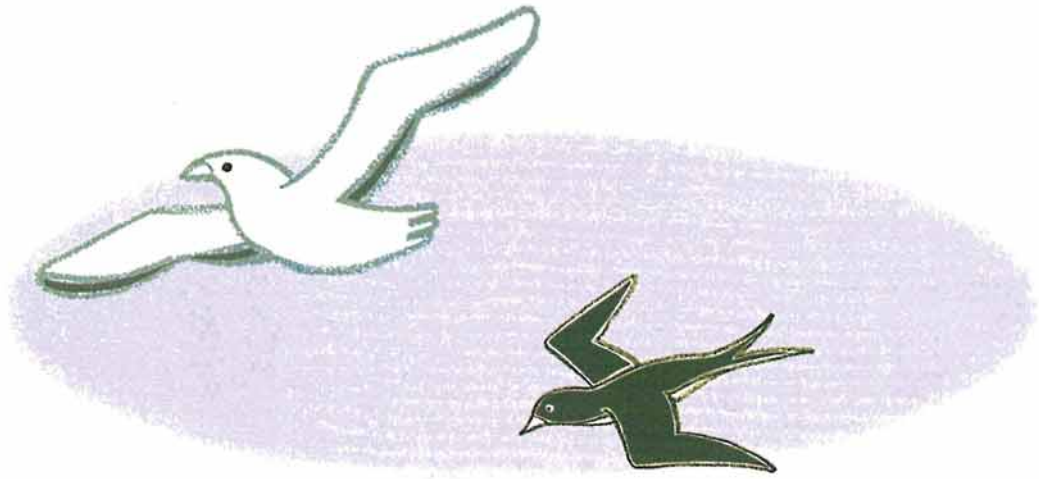
説得できない自分に無力を感じ、ダメな母だと落ち込んで、もっとしっかりした母親にならなくてはと苛いら立だって、情けなくって、

自信がなくなり泣けてくる。脱力感に襲われる。

でもね、これでもね、あなたのことを精一杯愛して、一生懸命に理解しようと頑張っているんです。

だから、たまには、「もういい！」なんて言わないで、

「もう少し」ゆっくりお母さんと話そうよ。



親友

「お前のお兄ちゃんは、ばかだ」と言われて、あいつを殴ってきたと、興奮して帰ってきたあなた。

「相手は、大丈夫だったかね。」と、

あなたの前では平気な顔で言ったけど、

本当は、お父さんとお母さんは、心の中で泣いていました。ばかとかあほとか、そんな事は、どうでもいいんです。

いつもは、喧嘩ばかりの兄ちゃんのことを、思ってくれたあなたのそのくやしさが、嬉しかった。

手を出せば、悪い。それは、百も承知。

でも、自分より年上の、体の大きな相手に向かっていったあなたの勇気と正義感に頭が下がります。

兄ちゃんに最初で最高の親友ができました。

お母さんは、男の子をふたりも産んで

「幸せだ」と、ほこりに思います。

命の限り

「乳ガンです」先生の言葉が

耳の奥で響いていました。

君はまだ小学生でしたね。

病気の意味も分からず

半年も入院していた私のところに

必死で自転車をこいできてくれた

小学生のあなた。

帰っていく後ろ姿に涙がかさなって

母さんはぜったい生きると思いました。

あれから五年

君も中学三年になり、

色々相談できる青年になりつつあります。

私の命の限り

貴方が幸せになれるようにいつも願っています。

いつまでもすなおに元気で：



優しさをありがとう

あなたが小学校に入学したとき、お母さんは少し心配でした。何もかもがお友達よりもゆっくりで、置いてきぼりになるのではと焦りました。そんなお母さんに、担任の先生は「大丈夫すぐ追いつきますよ」と優しい目でおっしゃいました。そんなとき、教育講演会の資料に星野富弘さんの詩を見つけました。次のような詩でした。

誰がほめようと 誰がけなそうと

どうでもいいのです

畑から 帰ってきた母が でき上がった

私の絵を見て

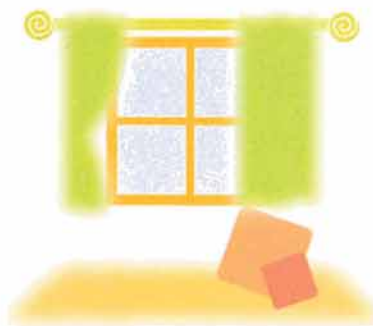
「へえっ」とひと声驚いてくれたら

それで もう 十分なのです

お母さんは、はっとしました。そうだお母さんはいつでもあなたを応援していこう！
あなたのことが大好きという気持ちを大切にしていこう！と思いました。すると今まで
気になっていたことが、大丈夫、大丈夫。ゆっくりでいいよと思えるようになりました。
そして、あなたがとてもいとおしくなりました。

中学生になったあなたは、体も大きく、気持ちの優しい、そして頼もしい男の子に成長し
てくれました。今、お母さんは、あなたに無限の可能性を感じます。
いつも家族に優しさをありがとう。

お父さんも、お母さんも、お兄ちゃんもあなたに癒されています。



君の横顔



中学生になって急に大人びてきましたね。

あまり話をしなくなっ、おこっているのか：

その横顔がときにはつらそうに悲しそうに

見えるときがあります。

学校で何かあったのか、友達と何かあったのか

それとも自分でもどうしようもない

いらいらがあるのか。

親の存在がけむたいのか：

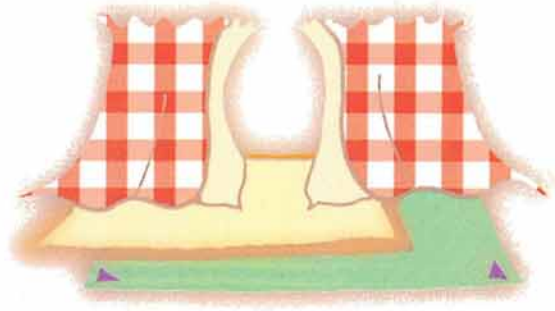
その横顔にあれこれ思いをめぐらせ心配しています。

無理をして笑わなくてもいいから

「おはよう」「ただいま」「おやすみ」…のあいさつだけは、

視線を合わせて、きちんとしてほしい。

それだけで、安心できるから。



叫び

ウオーツ！

おとうさんも おかあさんも
叫びたくなる時があるんだ

時には心の耳できいてほしい

悲鳴をあげたくなるけど

おまえのおとうさんとおかあさんだから

にげるわけにはいかない

おとうさんもおかあさんも闘っているから

おまえもやるべき事から目をそらさないでほしい

おまえの叫びを

おとうさんとおかあさんはいつも心の耳できいてるから…

信じているから…

一緒に叫びながら がんばろうな

「希望」

— 明日への言の葉 —



ただいま

あなたの「ただいま」の声で

あなたの、今日一日が少しだけ分かるような気がします。

先生におこられたのかな

友達と楽しかったのかな

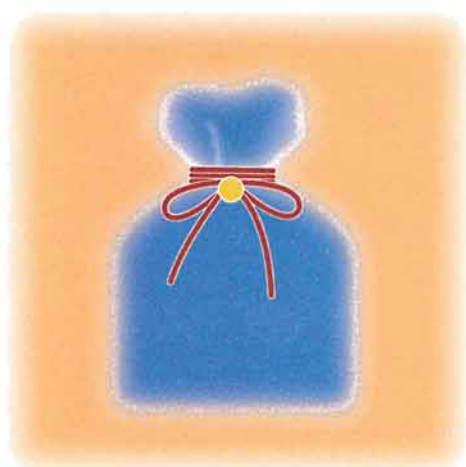
部活でつかれたのかな

これからも

あなたの

いろいろな「ただいま」を

待っています。



お母さんへ

お母さん

お母さんが僕の名前を呼ぶ^{こわ}声色^{いろ}で僕は

お母さんの心の状態がわかるんだよ

イライラしないでニコニコしてね

僕はがんばるから

僕がんばっているのだから



必ず君を守ります

十二年前、元気一杯で生まれた君が、六歳の時急に病気になったね。どうなる事かと、とても心配したけど、無事に手術も終え、少しずつ健康になってきたね。だけど、まだ、皆と一緒に参加できない事もあって、君がその度に悔しい思いをしていることをお母さんは、ちゃんと分かっているよ。

そんな時、いつも言うよね。「体が不自由だったりで、君よりも辛い思いをしている人が世の中にはたくさんいるんだよ。ありがたいって思わないと」って…。

一緒に入院していたお友達の方まで、今、生きていることに感謝して、自分に出来る精一杯の事をやりなさい。

人間、皆、幸せの数は同じだから、今まで辛い思いをたくさんしてきた分、これからは、いい事がたくさんあるんだよ。

そして、前だけを向いて、転んでも自分で立ち上がる強い精神力を持って生きていきなさい。せっかく助けてもらった命だもの…

それから、困った時は、お父さんやお母さんに相談しなさい。必ず、力になるからね。必ず君を守ります。

大切な君へ

お母さんより





心の手

たった一人の父親。

いつもしゃべらずそばにいる。

そばでいつも支えてくれる。

母親のかわりはできないけど私一人を大切にしてくれる。

しゃべらないってつらいけど毎朝いつも

「学校頑張つて。行ってらっしゃい」そう言いながら

大きくあたたかい手をさしのべてくれる。

そんな父親、見た目はつめたいけど

心と手だけはひといちばいあったかい。

「ありがとう」

家族という一番近いけれど、一番いたわり合わなければならぬ関係の中で常にそこにおいて当たり前前、してもらって当たり前前

口に出さなくてもわかっているはず：

親も子も日常の忙しさにまぎれて、つい後回しにしてしまう言葉があります。

あまり多弁とはいえない我が子の口から頻繁にこの言葉が発せられるのに気付いたとき、私は心をとるかされるような感動と、同時に親である自分の言動を反省することでした。

「ありがとう」

ささいな親子ゲンカで、子どもの反抗的な態度に腹を立てながら、

何かを「はい」と手渡すとき、

即座に「ありがとう」の言葉が返ってくると、

私の怒りはもう静まっていきます。この言葉のもつ優しさ、心地よさ：

それに気付かせてくれた我が子に感謝です。

難しい年頃、生きにくい世の中だけど「ありがとう」の一言が素直に言える人間に。そう願っています。





僕の夢

ぼくは、父の仕事がどんなに大変か知っている。

人々を守るためにいつも危険と隣り合わせ。

せつかくの休日でも、なにか大きな事件があればいつも呼び出される。

なかなか休日に出かけることもできない。

今も、仕事の都合で地方に単身赴任で、

家にはいなくて一人で暮らしている。

あと、二年もしたら家に帰ってくるからさびしくはない。

僕も、いつか大人になったら、父が仕事を辞める前に、

おなじ仕事場について、父と同じ仕事を歩んでいきたいとおもう。

父さん、それまで元気でいて、仕事辞めないで続けていて下さい。

父さん、僕に大きな夢を与えてくれて本当にありがとう。

大好きな娘へ

「こら、起きろ」

毎朝、父親の目覚ましゼリふ。ドタドタ足音と共に、娘の寝起きの何とも言えぬ顔が現れる。

「おはよう」と言えば「うん」冷蔵庫から好きなものを出してパクリ。

「部屋を片付けて」「ちよっと待って」ずっと待っても片づける気配はなし。

「勉強してる」「はくい」マンガを書いている。自由人だなあ。

先日、夫婦げんかをした。いつもは部屋に閉じこもる娘が出てきて、

「まあまあ落ち着いて」と仲裁に入ってきた。それでもその場はおさまらない。

しばらくしてから娘が一枚の紙を持ってきた。

なんと父の言い分、母の言い分、そして第三者からみた娘の意見とある。

その中でけんかしていても、お互いのことを思い合っていると分かったから良かったとあった。

それを見て母は涙がとまらなかつた。

よく解っているなつて。恥ずかしくもありうれしくもあり、とにかく参つた。

親の言うことは「きかんぼ」のあなた。着実に成長してるんだね。

ありがとう。

そして今日も始まる

「こら、起きろ」

母より



お母さんのおい

お母さん。私、昔からお母さんのおい大好きだよ。

何のにおいってわけじゃないんだけど、

この世のどんなにおいよりも大好きだよ。

私、思ったんだけど、洗濯のおい、料理のおい全部ひっくるめて

「お母さんのおい」っていうんだよね。

私が小さいときからずっと変わらないそのにおい。

それは、今まで私たち家族のためにがんばってくれた証だと思うから、

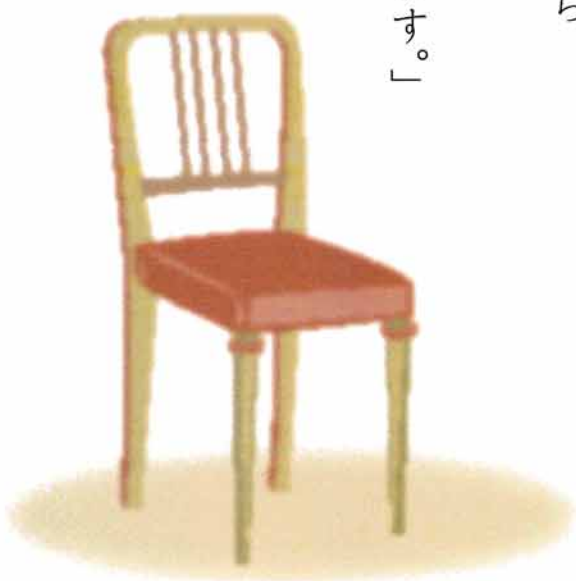
ちよつと照れるけど私が家族を代表してお礼を言います。

「今まで本当にありがとう。そして、これからもよろしく願います。」

まだまだ手のかかる私だけど、これからもお世話になります。

私が立派な大人になるまで、温かく見守っていてください。

「お母さん、大好きだよ」



たくさんの自由

「自由」って言葉好きですか。

自由に生きて、自由に歩いて、自由に遊んで…

辞書には「心の思うまま他からの束縛を受けないこと」とありました。

自由って言葉カッコイイけど、

そのまま生きたら動物の本能そのままみたいに思わない。

他からの束縛を受けないって、親からなの、先生からなの。

勉強しないのも自由、好きなファッションをするのも自由…

親や先生の意見を聞かないのも自由…

いろんな自由がたくさんあるね。

でも、もっともっと多くの自由がある事も忘れないでね。

人をイジメない自由、誘われてもハッキリ断る自由、

勉強を続ける自由、人の悪口を言わない自由、

これからの長い人生たくさんの自由をみつけて欲しい。



戦後六十年の夏

お父さんへ

お父さんの実家へ行くと、おばあちゃんがいきなり

「よく帰って来たね、おばあちゃん会いたかったよ。」と言って泣き出したのでびっくりした。おばあちゃんは九十歳なのに八十六だと言ったり、同じ事を何度も繰り返して聞くので、正直僕は疲れた。同時にもう前のおばあちゃんでないことが悲しかった。

奄美が米国軍政府の統治下にあった時代を乗り越えて生きてきたおばあちゃん。

今でもお姉ちゃんのTシャツの「cookie monster」という横文字を普通に読んで、

「それは何なの」と質問するところは好奇心旺盛ですごくいいところだ。

もっと早くにおばあちゃんに戦争の事や、田中一村の事など聞いておけば良かったと後悔した。もう、お父さんのことが誰だか分からなくなっているおばあちゃん。

だけど、ぼくが成人するまで、長生きしてほしいと願っている。

「お父さん、来年も奄美へ帰ろうね。」



お母さんの遊び

おもしろい遊びを発見しては、得意げに披露してくれるお母さん。今まで私を育ててくれてありがとう。

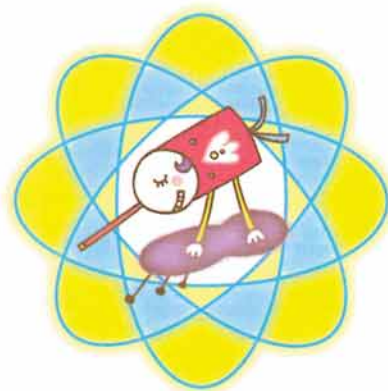
どんなに疲れていても明るく笑顔で接してくれるお母さんのことが私は大好きです。

これからもお風呂場で妹とする「なめくじごっこ」、ホラー映画を見ながらの「気絶するふり」など、お母さん独自の楽しい遊びを

どんどん見つけて、私に披露してください。私も今年は受験生。

志望校合格に向けて頑張ります。現在、単身赴任をしているお父さんももうすぐ帰ってくる予定ですね。今までお母さんがためこんできた遊びを見て、お父さんがどのような反応をするのか、実はちよつと楽しみにしています。

これから先も健康に気をつけて、いい親子関係を築いていきましょう。



素直さを大切に

中学生になってもまだまだ幼さが残っていて、

いつになったら母の理想とするカッコイイ若者になってくれるのやら。

最近は少し生意気になって、反抗期かなあ。

母をにらむ目に敵意を感じたり、投げつけられる言葉に悪意を感じたりする。

「あつ、今、我が息子に悪魔が乗り移りました」って実況すると、むこう向いてへへっと照れ笑いして、いつもの天使の顔に戻る。

素直さが君の良いところなんだから、変にねじれないで、まっすぐ向かってきてね。

母はいつも真正面から君を受け止めるから。

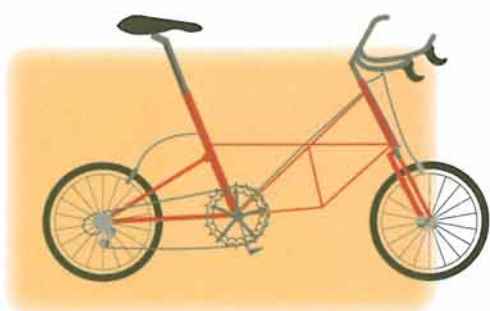
誰からも愛されることは難しいかもしれないけど、

自分が人を好きになれば、

きっと人間関係がうまくいくきっかけになるよ。

素質は十分にあるんだから最初からあきらめずがんばれ！

応援してるからね。



十五歳をむかえたあなたに

これからの坂道はゆっくりと歩けばいい。

淡々と、そして永く続く坂道に

迷い悩むこともあるだろう。

そういうときは一人で抱えず、わたしたちにも話してほしい。

あなたのことを一緒に考え、あなたの支えになりたいのだ。

わたしたちもあなたと同じなのだ。

自分のできないことや失敗にいつも思い悩み、

でも、あなたに支えられ、あなたに寄り添いながら、

ゆっくりと、でもしっかりと坂道を歩いている。

あなたのおかげでここにいる。

十五歳を迎えたあなたに、

今、坂道を歩き始めた友に、

おめでとう。そしてありがとう。

父さん 母さんより



「愛」

— 伝え合いたい言の葉 —



よろしく

俺は正直お父さんのことおかしいと思う。

だって、ほとんど怒らないくせに怒ったときは、かなりこわいじゃん。

それに、「お前は勉強しても意味ないんだから勉強するな」とか、ふつうじゃ絶対ありえないこと言うし。

でもまあ、俺もたくさん迷惑かけたけど、そっちも俺に迷惑かけたんだからおあいこってことで。

でもとにかく、俺にはお父さんしかないんだから絶対事故とか起こすんじゃないぞ。

あと何年一緒にくらせるか分かんないけど

よろしく！

怖い母

僕の母は、はつきりいって怖い。負けず嫌いの僕は、たまに母と衝突してしまうことがある。そんな母は、僕の友達にも容しやしない。友達の中には、僕の母を怖いと思っている人もいると思う。でも、悪いことをしかるのは当たり前。今の親はしからないことが多く、自己中心的な子に育ってしまう。

親の思いが子に伝わる。僕の親がいて、僕がいる。

母へ。人から嫌われる損な役を引き受けて僕をまっすぐ育ててくれてありがとう。

親子の協力

私には心に残っている言葉があります。子供が小学校に上がったとき、担任の先生に子供が言うことを聞かないとか、自分の思っている不安をうちあげた時に、先生が「お母さん、子供さんは生まれてまだ六年しかたつてないんですよ」と言われました。

私は「そうか私もまだ母親になって六年しかたつてないんだ」と思ったら、何だか肩の力がぬけました。

お互いが一年一年時間をかけて成長していけばいいんだと感じました。

これから高校に上がり、社会人となり、沢山の問題にぶつかるとは思います。本人が良い方向に進めるよう、お互いに協力して生きていきたいと願います。

子供が大きくなったとき、お父さんとお母さんの子供で良かったと思えるような親になりたいものです。

母親歴十四年目の気持ちです。

悩むこと

ねえ、大人に近づくと大変だよ。悩んだり、悔しいと思ったり、辛かったり、悲しかったり、思い通りに行かなかったり…。でもね、そうやって悩むことが大切なんだよ。

悩んで悩んでその先には何があるかな。何が見えるかな。

その先に見えるものが大人に近づくと口なんだよ。

その入り口を抜けた時、人間は皮むけて心の目も広がるんだよ。これから先も、一杯一杯その繰り返し。

でも逃げないで。投げ出さないで。

前が見えなくなった時は、私がいるから。いつでも心の扉を開いて待っているからね。

だってあなたは私にとってかけがえのない娘だから。

母のごはん

喧嘩した。

ぼくは、母の作ったごはんを食べず

自分で作って食べた。

そしてさっさとねた。

その次の日、気持ちもだいぶおさまり

母の作ったごはんを食べた。

なぜか、いつも食べるごはんよりも、

ずっとずっと

おいしくおもえた。

いつまでも

あの日、僕はお母さんとケンカをしてしまった。

そして僕は家を出た。

夜になっても絶対帰らないと思っていたのに、

なんだかお母さんのことばかり思い出してしまう。

怖いときもあるけど、やさしくて、僕のことを心配してくれる。

どうしてだろう。

思い出してしまおうと涙が止まらなくなってしまう。

家に帰ってみると、お母さんが、とても悲しそうな顔をしていた。

僕は、「ごめんねお母さん。」と言った。

そしたら、お母さんは、笑顔で少し涙が見えた。

いつでも見守ってくれて、本当に本当にありがとう。

見送る背中

朝の玄関での見送り。

ほんの短い時間だけど、靴をはきながら、学校のこと、ニュースのこと、宇宙のこと、いろいろな質問や話になりますね。

「間に合うのかな」と思いながらもおしゃべりします。

「行ってきます」坂をおりながら、前は、見えなくなるまで手を振っていましたが、中学生になったとたん、後ろを振り向かず、そのまま降りていきます。照れくさいですね。

でも、お母さんは、見えなくなるまで、最後まで見送ります。

「今日も一日がんばってね」の言葉が君の背中に届いているはずですよ。

待ってるね

口をきいてくれない。目つきも変わってきた。

何を考えてるのかもわからない。本当はやさしい子なのになぜ…。

誰よりもいちばんあなたの事わかってるはずだったのに、なんにもわからなくなつた。

でも、待つことにしようと思う。

あなたも一人で考えてるんでしょう。

いろんなこと…。

そんな年頃になったんだって思うことにした。

だから早く前のように笑ってね。

父の味方

お母さんに

おこられて

お姉ちゃんに

いじめられても

味方がいるよ

お父さん

ありがとう

たくさんこまらせた。たくさん怒らせた。

たくさん大っキライって言った。

たくさん傷つけた。

いつか、仲直りできるって思ってた。

いつか「ごめんね。ありがとう。」って、

「大好きだからね。」って言えると思ってた。

そんなあなたは、今いない。

いなくなっって、やっと気付いたありがたさ。

そばにいてほしい、話したいって思ってること。

今、直接は言えないけど…

どっかで聞こえますように。

どっかで見てますように。

あなたに精いっぱい伝えていくから…

ありがとう。

親子の夢

いつも朝早くから夕方まで、そして時には夜勤と忙しいお母さん。わたしが風邪をひき、お母さんの勤めている病院に行ったり、お母さんの働いている姿を見たとき、お母さんの働いている姿を見たり、注射を打ったりしていてもかっこいいなと思いました。その姿を見たとき、わたしはお母さんのような看護師になりたいと思ったのです。

実を言うとお母さんは救命センターに入りましたそうですね。しかし、その夢は叶えられなかったのですよね。だから、わたしはお母さんの叶えられなかった夢を叶えたいと思います。

今は受験生でとても大事な時期です。少しでもお母さんに近づけるように勉強を頑張ります。そして「看護師になって救命センターで働く」という二人分の夢をわたしは絶対に叶えます。ですから、いつまでもいつまでもわたしのそばで見守っていてください。

満足

昨年暮れ……。その年の世相を漢字一文字で表すということが話題になっていたと
きのこと。君はこう言ったね。

「お母さんの今年一年を表す文字は『忙』
でしょ。僕はね……『満』だな。」

どんな文字が出てくるのかと少々不安だ
ったのにまさか「満足」の文字が出てくる
とは。毎日忙しくてまともに構ってあげ
られなかったのに君自身はとても充実し
た一年をすごすことができたのだね。

何だかお母さんも元気をもらったような
気分になりました。

さて、今年は、どんな文字になるかしら。
悔いの残らない一年にしたいね。

いつでも応援しているよ。

力を抜いて

肩の力をぬいて……

学校で集中していっぱい頭を使っている
んだから。

家では、力を抜いていいんだよ。

する事していつもの事をして……

そして家族で笑おうよ。

悩み多き年頃なんだから机に向かって

カリカリしてるのもお母さんにはわかる
よ。

でも少し話して楽になる事だってあるは
ず。

女どうし話そうよ、笑おうよ、泣こうよ。

そして家族でいっぱい遊ぼうよ。

がんばっているあなたへ

平成17年度「こころの言の葉」コンクール入賞者

大 賞

中 学 生 の 部	親 の 部
前 田 亜 貴	吉 見 孝 子

準 大 賞

中 学 生 の 部	親 の 部
岡 山 美 咲	嶋 崎 加 与 子
上 原 夕 佳	山 下 香 代 子

優 秀 賞

中 学 生 の 部	親 の 部
向 江 美 咲	繁 昌 さ と み
村 永 亮 平	山 下 道 治
大 村 雄 治	前 田 正 一
山 崎 藍	岡 元 陽 子
嶋 崎 衣 利 子	川 野 君 代
海 江 田 愛 梨	杉 尾 友 重
奥 祐 一 朗	岩 切 一 義 ・ 絹 代

入 選

中 学 生 の 部	親 の 部
長 屋 秀 幸	本 房 三 千 代
山 口 誠 侑	中 村 ひ と み
大 城 彩 乃	折 田 典 子
大 迫 千 華	青 山 か お り
古 園 恵 里 香	染 川 久 代
今 給 黎 由 菜	玉 利 典 子
神 崎 隆 行	徳 重 美 穂
上 園 あ ゆ み	吉 崎 小 百 合
藤 久 保 宏 実	黒 江 祐 子
二 石 奈 穂	竹 井 和 代
富 満 真 菜	本 村 い ず み
長 山 健 太 郎	宮 下 利 子

応募総数:8,068点

審査講評

審査委員長

千々岩弘一先生

今年も、葉書一枚大のスペースには、切実な今を生きる中学生の内面と子育てに奮闘する保護者の実感が無限の広がりをもって、真摯に綴られていた。加えて、新鹿児島市の誕生に呼応して応募点数が一気に増加した。共に喜ばしい限りである。

ところで、本コンクールに関係する我々は、自らの内に「形骸化」の危機が内在していることを自覚しなければならぬ。本コンクールが今を生きる中学生と保護者の双方にとって、自己を見つめ、他者を見つめ、相互の存在を見つめる機会となりつつあること、参加者は常に変わっていくこと、葉書一枚大のスペースだからこそ実現できていることなどを、再検討・再認識しなければならない。その上で、新たな様式の導入や学校教育・家庭教育への本格的な活用、発展的なイベント（「親子討論会」など）の開発を実現しなければならない。

本コンクールが、新鹿児島市の「伝統的な教育力」になることを期待したい。

鹿児島国際大学教授

遠矢仁司先生

予想を遥かに超える八千点の応募に驚きながら、またたくさんの「こころの言葉」に出会えたことを大変うれしく思いました。欲を言えば、もう少しの保護者の方々の応募を期待するところです。

親の真情で綴られた我が子への願いや期待、そして励ましの言葉。子供たちの母に助けられたこと、父に励まされたことなどへの感謝の気持ちや夢と希望を伝える言葉。一つ一つの作品にもそれぞれの思いが、たつぷりと込められていて、審査中幾度も胸を熱くさせられました。面と向かつては言えない親の無言の応援をも敏感に受け取っている子供たちに感心させられました。家族の団欒が減り、親子の会話が少なくなったといわれている中で、今まだ親子の精神風土は揺るぎないものがあると確信できました。

今から少しずつ大人になっていく中学生、これからの人生で今までよりももっと大きな困難なことにおつかるかもしれない。どうしても解決できないとき、どうしてもないとき、その時こそ勇気を出して親と語り合って欲しいものです。そしたらきっといい道が拓けるはずです。

市PTA連合会会長

若松マミ先生

ふふっと噴き出したり、胸がキュンと切なくなったり、涙が落ちそうになったり。。「言葉」の作品を一つ一つ読むごとに、百面相をしてしまいます。

今年は長い文章の作品が目立ちました。「親に手紙なんか、まじめんどい」と言いながら、いざ書き始めたら、思いがあふれて筆が止まらなかつた子供が多かつたのかもしれない。

いつでもどこでもメールが飛び交う時代。でも、はんなりする言葉の渦の中で、私たちが本当に伝えたい、あるいは受け止めたい言葉には、なかなか出会えませんが。だからこそ、子と親が気持ちを伝えるため、一字一句したためた「言葉」は、ずつしりと胸に響きます。部活や受験、友人関係に日々揺れる思春期、そんな子どもたちに葛藤する親、それぞれの生きる喜びや苦勞がまつています。

みんなの心の文章だから、本当は審査するものではないのでは、と悩みながらの作業でした。応募した方たちが、執筆中に感じた心のきらめきをいつまでも忘れないでいてくれたらと思います。また作品集を手にとった人は、周囲に薦めてください。一読すれば、きっと子どもたちを抱きしめたくくなります。

南日本新聞社編集総務部副部長

山口光敏先生

現代社会の病理現象の一つに家庭（親子）問題がある。子供たちを取り巻く家庭環境は千差万別であるが、そこには家庭の数だけのドラマがあり、したがって、悲惨で残酷な事件が毎日のように私たちの目に飛び込んでくるのも事実である。

また、学校の三大病理現象といわれる「いじめ・不登校・校内暴力」も相変わらず深刻な問題として跡を絶たない。

これらの病理現象は、思春期を迎えた子供と親の不和と断絶に起因するところが少なくない。そうした背景を踏まえて、親子の心の交流を図り、望ましくも健全な親子関係を啓発することを目的として、この「こころの言の葉コンクール」が実施されたものである。

本年度で三回目となるが、応募された作品は、そのほとんどが趣旨をよく理解し、偽らざる親子の心情をひしひしと伝えつつ、家族の強い絆を感じさせてくれるものであった。

ただ、親にしても子供にしても本音では互いの存在を認め、よき家族の一員であろうと努力はするものの、まだまだ言いたいことも言えず、相談したいことも遠慮してしまうという傾向にある。

そうした親子の関係が、このメッセージの積み重ねによって、少しでも距離を縮め、お互いにとって最高の存在になってくれることを願って止まない。

これら優秀作品は冊子となって届けられる。家庭では家族で輪読などして感想を述べ合い、温かさや厳しさや感動のある家庭作りの指標にされたらどうでしょうか。また、学校では学級活動や道徳の時間、人権学習や学級PTA等での活用によって、子供たちの健全育成が図れるとともに、今まで見抜けなかった親子の真の姿を見抜く目と心が開けてくるものと確信します。

元中学校長

大迫みちよ先生

「こころの言の葉」による感動が人から人へと伝わり、多くの生徒・保護者が、言の葉の作品集に共感を得て、今年は八千通を超える応募の作品の中、父親ならではの力強いメッセージも多数ありました。

親子間の心の断層を埋めようと、真心のメッセージがかけはしとなり、より一層の深い愛情を感じながらもぶつかり合う、心の変動に「自己反省・思いやり・感謝」で綴られた作品に子供の成長が感じられました。

また、多様な情報化社会、心身にわたる危機的な状況に置かれている中、子供たちの心に戸惑いの感情や、リアルな表現が散乱しているのも印象的でした。

「書くこと」と「心」。書くという行為には、気持ちを整理したり、感情をちよどいい具合に抑制する力があります。また、悩みが軽減されたり、意外な自分の心を発見できたりといういろいろな効用があるものです。

それぞれ違う家庭環境の中、お互いの存在を確かめ合い、親子間のいいところを見つめて、「こころの言の葉」によるかけはしで心の交流を継続されることを願いたいものです。

市地域相談員

わたしからの「こころの言の葉」

子から親へ

親から子へ

こころの言の葉

～伝え合う思い～

平成18年1月31日発行

発行 鹿児島市教育委員会
〒892-0816 鹿児島市山下町6-1
TEL (099) 227-1941 FAX (099) 227-1923

